

平成 30 年度 亀下区地域未来ビジョン作りに関する取り組み状況

第 1 回	実施日	平成 30 年 6 月 17 日 (日)	■村長から未来ビジョン作成について説明 ・ 亀下区は各世代の人口構成のバランスがよく、独自性があるが、10 年先を考えなければならない。 ・ 村内各地で将来像づくりしませんか、と呼びかけるにあたり、亀下区はそのモデル地区にしたいと考えている。 ・ 次の世代に引き継ぐため、亀下区に必要なこと、どうやって活性化できるか、ということを考えていきたい。
	時間	17:30~19:00	
	場所	亀下区自治集会所	
	参加者	自治会関係者 30 名 村長 地域づくり推進課員	
第 2 回	実施日	平成 30 年 7 月 8 日 (日)	■村長から若い世代の方へ未来ビジョンについて説明 ・ 今までは自治会の自主的な活動に任せてきたが、このところ閉塞感がたまり、何とかしなくてはと感じていた。 ・ 未来ビジョン作りとして明るい未来を思い描き、継続事業又は新規事業に取り組みたい。亀下区は各世代がそろっていて色々できると思う。 ■簡単なワークショップ『亀下区のよいところ』 <i>協力的である／お互いの顔がわかる／3 世代が一緒に住んでいる 等</i>
	時間	17:00~18:05	
	場所	亀下区自治集会所	
	参加者	自治会関係者(子供会関係者含む) 19 名 村長 村民生活部長 地域づくり推進課員	
第 3 回	実施日	平成 30 年 7 月 22 日 (日)	■ワークショップ ①『亀下区の良いところ、誇れるところ』 <i>静かで緑豊か／景観、気象条件に恵まれている／親切な人が多い／人情にあふれている／裕福な者が多い 等</i> ②『私が自治会長だったらこんな地域にしたい』 <i>子供会・壮青年部の充実／役員の負担軽減／農業従事者を増やす／今の状況に満足／自治会行事の削減 等</i>
	時間	13:00~14:30	
	場所	亀下区自治集会所	
	参加者	自治会関係者 25 名 村長 村民生活部長 地域づくり推進課員	
第 4 回	実施日	平成 30 年 9 月 29 日 (土)	■ワークショップ ①『亀下区に足りないもの』 <i>交通の便が悪い／第二の駅／自然災害対策／病院／商店(食料品・日用品)／公園・広場／イベント／子ども会／若い世代の交流の場／各種役員のなり手 等</i> ②『交流を活発化するため』 <i>大人用の交流の場を作る／スポーツ大会開催／子どもが楽しめるイベントを開催する／カフェを作る／子ども食堂・高齢者食堂を作る／盆踊りを実施する 等</i>
	時間	14:00~16:00	
	場所	亀下区自治集会所	
	参加者	自治会関係者 29 名 村長 村民生活部長 地域づくり推進課員	

第 5 回	実施日	平成 30 年 11 月 18 日 (日)	■ワークショップ ①『 壮青年部を活性化するには 』 輪番制の導入／役割を軽減化／魅力的な事業の企画／楽しめる新しいイベントの実施／皆でカバーしあう環境が必要／自治会内の組織として位置付け 等 ②『 より多くの仲間を巻き込むためには 』 近所への声掛け／準備にかける時間を短くする／各種団体との連携／景品を増やす／食事を出す／盆踊りの復活／夏祭り内容の見直し／アンケートをとる 等
	時間	13：30～15：00	
	場所	亀下区自治集会所	
	参加者	自治会関係者 19 名 村長 地域づくり推進課員	

第 6 回	実施日	平成 31 年 1 月 20 日 (日)	■ワークショップ ①『 運動会について思うこと 』 年齢に合った種目があるとよい／種目がマンネリ化している／参加者が増えるとよい／若い人の参加が少ない／千人鍋を続けてほしい／壮青年部の仕事が多く負担になる／今ぐらいの時間がちょうどよい 等 ②『 みんなが参加したいと思える運動会をするため 』 種目を再検討する／子ども達の意見を取り入れる／運動会の実行委員会を作る／賞品を充実させる／高齢者クラブから競技用備品を借りる／隣近所への声かけをする 等
	時間	10：00～11：50	
	場所	亀下区自治集会所	
	参加者	自治会関係者(壮青年部含む) 21 名 村長 村民生活部長 地域づくり推進課員	

『』…ワークショップのテーマ、斜体…ワークショップで出た意見

ワークショップの結果 ～平成 31 年度に亀下区として取り組むこと～

亀下区を今後さらに活気づけるために、地域のまとまりがあり、これまで 40 回以上実施されてきたイベントである運動会について、6 月から雇用予定の地域おこし協力隊*の隊員を交えて検討し、もう一度盛り上げる。



それを 1 つのきっかけに、子どもや高齢者の問題など地域の課題についても、皆で意見を出し合い、実践することを繰り返していくことで、地域の活性化や新しい力の発掘につなげていくことを目指す。

***) 地域おこし協力隊**

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした総務省所管の取組。都市地域から過疎地域等に生活の拠点を移した者を自治体が「地域おこし協力隊員」として委嘱するもの。隊員は、一定期間、地域に居住して、地場産品等の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や住民の生活支援に取り組む。

ワークショップの様子

